

文芸さんむとは・・・

「文芸さんむ」の前身は、旧山武町の文集「すぎの実」である。その創刊号までには、こんな経緯があった。「すぎの実」は長年に亘り町民生活に根差し、愛読されてきた存在だったが、山武市の発足により惜しまれつつ廃刊になった。

その後、「再び文集を」と、「すぎの実」関係者を中心とした方々の熱意と努力の継続が文集復活の決定に結実し、平成二十二年二月、新しい市民文集「文芸さんむ」として生まれ変わった。

文集の主管は生涯学習課で、「この気持ちを伝えたい」をスローガンに、市民なら誰でも自由に投稿でき、文芸を通じて研鑽・交流を図り、市民文化の向上と継承に繋げることが趣旨である。

文芸さんむ応募要項

1. 作品ジャンル【複数ジャンルの応募可】

- 短歌（7首限定）
- 俳句（7句限定）
- 川柳（7句限定）
- エッセイ（ひとり1作品のみで、原稿用紙8枚以内）
- 評論（ひとり1作品のみで、原稿用紙10枚以内）
- 短編小説（ひとり1作品のみで、原稿用紙15枚以上25枚以内）
- 詩（1作品につき原稿用紙4枚以内。ひとり2作品まで。）

※原稿用紙の枚数及び応募作品数は必ずお守りください。

2. 応募資格【18歳以上】

- ◆ 山武市民（元市民も可）
- ◆ 市内在勤者（元市内在勤者も可）
- ◆ 市内在学者（元市内在学者も可）
- ◆ 市内短歌会員・俳句会員

3. 注意

① 投稿作品は文芸さんむに掲載されます。ただし、応募数や内容によっては編集委員会議で検討し、掲載の制限をさせていただきます。なお、投稿された内容が本誌の作品ジャンルに合わない場合や字数がオーバーする作品は掲載できませんので、ご了承願います。

② 各ジャンルの作品は、1話完結するものとし、連載となる作品は掲載しません。

③ 原稿について編集委員からお電話をする場合があります。

④ 写真や図は掲載しません。

⑤ 作品が掲載された方の文集は、原則窓口にて配布します。

なお、窓口でのお受取りが困難な場合は、投稿時に生涯学習課にお申し出ください。

⑥ 掲載された原稿は、普及の趣旨から各機関からの依頼による公表や市ホームページ等に掲載することを承諾ください。

4. 応募先・応募方法

① 山武市教育委員会生涯学習課（〒289-1345 山武市津辺262-1）まで、原稿と応募用紙をご持参またはご郵送ください。

② 応募期間：令和8年5月～9月1日（火）（必着）

※応募期間外の投稿は受け付けませんので、ご注意ください。市広報紙やホームページ等で最新の情報をご確認ください。

④

作品タイトル

殿台生涯太郎

≪ 投稿のきまりごと ≫

① 作品は未発表のもの。

② 各ジャンルの作品は、一話完結するものと
し、連載となる作品は掲載しない。③ B4サイズ四〇〇字詰め原稿用紙に縦書に
清書すること。パソコンやワープロの場合は、
原稿用紙ウイザードの四〇〇字詰め原稿用紙
に設定すること。④ 作品の冒頭に、タイトル・地区名・氏名ま
たはペンネームを明記すること。⑤ 引用文献や出典は、作品の最後に必ず明記
すること。

⑤

参考文献や出典など

・ タイトル名 著者名 出版社名

・ タイトル名 著者名 出版社名

※コピーしてお使いください。

きりとり

文芸さんむ応募用紙(1作品につき1枚提出)

ジャンル	原稿 枚数	枚	作品 タイトル	
	ふりがな			
氏名	ペンネーム (希望者のみ)			
年齢	□18歳～29歳 □30代 □40代 □50代 □60代 □70代 □80代 □90代 □100歳～			
住所	〒 ー	電話番号		

◎市外の方へ・・・ 右のいずれかにチェックし、名称 を明記してください。	<input type="checkbox"/> 元山武市民	<input type="checkbox"/> (元)市内在勤	<input type="checkbox"/> (元)市内在学
	<input type="checkbox"/> 市内短歌会所属	会の名称:	
	<input type="checkbox"/> 市内俳句会所属	会の名称:	

※応募期間は山武市広報・ホームページ等でご確認ください。

編集後記

本欄は毎号編集委員が順番で執筆してきたが、委員全員が執筆済みとなり一順したことになる。改めて平成二二年（二〇一〇）二月刊行の創刊号を繙くと私が後記を書いている。

新市長に一般市民から市政への要望や問題提起の場が設けられ、私は文化面からの要望を述べた。旧山武町で四〇年間発行されてきた文集「すぎの実」が、合併により予算配分を受けられなくなり廃刊せざるを得なくなったこと、新市でもぜひ市民文集を出刊したく予算の配分を、と新市長に懇願し、同じ要望を既に市長宛に送っていた布留川洋子さんの書簡を読んでいた市長は「わかりました。検討しましょう」と力強く応じ、新たに「文芸さんむ」発刊の道が開かれたと伝えている。

成東地区は伊藤左千夫の生家を擁し短歌や茶道の拠点となり、「里の秋」など秀れた童謡を多作した斎藤信夫を輩出し、山武地区埴谷はアララギ派発祥の地として広辞苑にも収載され、松尾、蓮沼地区は掛川藩移転による太田道灌の血脈が学問、文芸の伝統を守らせている。そうした文化的伝統を継承していく拠点の一つとして文芸誌刊行は望まれるところで予算的裏づけを懇願し、新市長は快諾してくれたのだった。実動部隊長として当時の関谷生涯学習課長が編集委員集めの行脚をされ、旧「すぎの実」関係者を中

心に編集委員を引き受けてくれそうな人材を確保するため一軒一軒訪ね歩かれた姿がいまも鮮烈に目に浮かぶ。拙宅にいらしたときには、家が狭くて座敷に入りきらない本を玄関にまで本棚を置いて並べてあるのをご覧になり、「うわっ、本屋みたいですね」と驚き呆れ、しばし本の話で盛り上がってしまったことを懐かしく思い起こす。

「すぎの実」の編集委員長だった熱田秀夫氏は「文芸さんむ」六号まで委員長を務めてくださった。書き手も多彩で、鋭い評眼と表現力抜群の尾関弘恭氏、名詩、名文で息の合った角田博・せつ夫妻、創作力、行動力で知的牽引をしてくれた布留川洋子さん、短歌、俳句、川柳何でもござれで、お得意の絵が載せられないことを残念がっていた富谷清次氏、多彩な人材が早やばやと彼岸に渡られた。残された編集委員たちは、この役に定年はない、認知症のきざしが見えるまでとは頑張っている。いやこの役をやっていると認知症が寄りつかない。みなさま、認知症予防、お迎えがくるまでパワフルに老春を楽しめる編集委員をぜひなさってみてはいかがですか。

勿論、現役ばりばりの体力、知力溢るる若手委員も大歓迎です。教育委員会（0475-80-1451）までご連絡お待ちしております。

（大掛）

山武市市民文集 文芸さんむ ― 第十七号 ―

編集委員

- ・工藤 進 (編集委員長)
- ・秋葉 重一
- ・今関 恵子
- ・鶴澤 美知子
- ・大掛 史子
- ・川島 隆
- ・佐瀬 智
- ・高浦 なみ子
- ・竹内 克隆
- ・立川目 陽子

- (題 字) 中野 日賀
- (表紙絵) 根本 千寿 (山武市立大富小学校五年)
- (タイトル) わたしのお父さん

ご感想やご意見をお寄せください

皆様のご感想やご意見を参考にしてより良い文集に育てたいと存じます。文集全体に関わること、ジャンル別、作品別等々貴重なご意見ご感想をお待ちしています。

提出先 山武市教育委員会 生涯学習課

山武市津辺二六二― 成東中央公民館内

電 話 ○四七五―八〇―一四五―

FAX ○四七五―八二―二〇五八

メール shogaiyakushu@city.sannu.lg.jp

山武市市民文集

文芸さんむ ― 第十七号 ―

令和八年(二〇二六)二月発行

編集

山武市市民文集編集委員会

発行

山武市教育委員会

山武市津辺二六二―

成東中央公民館内

○四七五―八〇―一四五―

印刷

山武印刷有限公司